

小樽商科大学 卒業論文（昭和27年度）

年度	番号	論題 (Theme)	備考
昭和27	1	価格論を中心としたマーシャル均衡理論の分析	
昭和27	2	株式価格に関する一考察	
昭和27	3	ケインズの確率論とケインズの像想	
昭和27	4	デパートメントストア -その現状を論じ明日の問題点に及ぶ-	
昭和27	5	C.I.F.契約に於ける価格の特異性	
昭和27	6	ケインズの利子理論に対する一考察	
昭和27	7	「人口論」に於けるマルサスの思想についての若干の考察	
昭和27	8	ケインズ利子論の一考察	
昭和27	9	経営分析の統一目的について	
昭和27	10	ケインズ理論長期化についての一考察	
昭和27	11	販売管理に於ける一考察	
昭和27	12	株式会社に於ける支配の集中について	
昭和27	13	日本資本主義の精神	
昭和27	14	企業集中論 -独占形態としてのカルテル-	
昭和27	15	授權資本制と無額面株式について(改正会社法より)	
昭和27	16	C.I.F.契約に於ける危険負担と所有権の移転	
昭和27	17	労使関係序説 -その組織的並びに典型的アプローチ-	
昭和27	18	ニューディール政策	
昭和27	19	ハンセン完全雇用理論をめぐりて	
昭和27	20	経済循環と資本蓄積	
昭和27	21	費用収益の認識測定原則について	
昭和27	22	会計学の本質に就いて -簿記理論構成の問題-	
昭和27	23	貨幣価値変動と評価の問題	
昭和27	24	アダム・スミス「資本蓄積論」 -その理論的意義と歴史的意義の一考察-	
昭和27	25	貨幣数量説一考	
昭和27	26	日・米 内部統制案の比較論	
昭和27	27	企業の活動性の分析	
昭和27	28	最恵国約款論考	
昭和27	29	英国為替平衡勘定論	
昭和27	30	株主の新株引受権について	
昭和27	31	ケインズ「一般理論」に於ける使用者費用の地位	
昭和27	32	企業資本の構成並びに回転の分析	
昭和27	33	減価償却の財務的性格に関する一考察	
昭和27	34	雇用と賃金 -賃金の変動の雇用に及ぼす影響-	
昭和27	35	固定資産評価益に就いて	
昭和27	36	標準原価制の吟味	
昭和27	37	海上保険の委付に於ける各国法及び慣例の比較並びに其の効果について	
昭和27	38	景気変動論 -販路説より不比例説への展開-	
昭和27	39	マーシャル『消費者余剰』に関する若干の考察	
昭和27	40	ケインズにおける通貨管理について -金本位制を繞って-	
昭和27	41	我国に於ける商品取引所の再開について	
昭和27	42	ケインズ『一般理論』の一考察	
昭和27	43	需要の弾力性	
昭和27	44	減価償却の本質	
昭和27	45	循環理論と価格理論とにおける本来的相剋 -ケネーとスミスに還りて-	
昭和27	46	マーシャルの経済学原理に於ける基本的理論構造とその問題	
昭和27	47	A.スミス『国富論 第二編』に於ける一考察 -スミスの再生産論の論理-	
昭和27	48	最低賃金制度 -生活賃金を中心として-	
昭和27	49	英国古典派の資本蓄積論	
昭和27	50	秘密積立金と保守主義の原則について	
昭和27	51	現代に於ける予算統制の地位に関する考察	
昭和27	52	管理会計の本質について -会計の経営管理的役割-	
昭和27	53	ケインズの利子理論について	
昭和27	54	本邦貿易外収支論 Treatise on Invisible Trade of Japan	
昭和27	55	営業権は補償すべきや	
昭和27	56	経営分析	

小樽商科大学 卒業論文（昭和27年度）

年度	番号	論題 (Theme)	備考
昭和27	57	資本概念の考察	
昭和27	58	近代企業経営の合理化に関する一考察	
昭和27	59	企業会計と監査の本質的関連について	
昭和27	60	国富論を中心とするアダム・スミスの経済思想についての一考察	
昭和27	61	販売管理 -特に販売計画と市場調査を中心として-	
昭和27	62	共同海損についての考察 -1950 York Antwerp Rules を中心として-	
昭和27	63	ダンピングと戦後の日本貿易	
昭和27	64	無額面株式制度論	
昭和27	65	中小企業の危機救済に就いての一考察	
昭和27	66	損益計算書の本質をめぐる包括主義と当期業績主義	
昭和27	67	シュマーレンバッハ動的貸借対照表論に於ける利潤計算の一考察 -非消費 給付計算と収入支出計算の結合-	
昭和27	68	減価償却に於ける評価論と固定資産の維持	
昭和27	69	株式会社論	
昭和27	70	古典派利潤論 -スミス価値論とリカルド及びマルサスの利潤論及びそれ に関連する地代論に対する考察-	
昭和27	71	英国経済学の思想的研究 -スミス・マーシャルを中心として-	
昭和27	72	社会主義計画経済論	
昭和27	73	国際貿易に於ける国際価格に関して	
昭和27	74	ケインズ理論と財政政策	
昭和27	75	国際経済構造の底流 -ケインズ理念の解放体制に於ける把握-	
昭和27	76	資本剰余金の分析	
昭和27	77	貨幣価値変動会計論 -貸借対照表を中心として-	
昭和27	78	マルクス経済学に於ける剰余価値論に就いて	
昭和27	79	キャピタル・ゲイン及びキャピタル・ロスに就いて	
昭和27	80	ケインズ『雇用理論』の一考察	
昭和27	81	流動性選好理論の一研究 -貨幣配分説的利子率決定理論の展開-	
昭和27	82	總括的損益計算制度の理論的構造及びその欠陥と限界に就いて	
昭和27	83	授権資本制度をめぐる諸問題	
昭和27	84	ケインズの非自発的失業について -過小雇用均衡理論研究-	
昭和27	85	戦後日本経済の実相とケインズの経済理論	
昭和27	86	利子学説史 -貸付利子説を中心として-	
昭和27	87	為替相場について	
昭和27	88	消費者需要の質的分析	
昭和27	89	マルサスの人口論を巡って -人口理論の発展-	
昭和27	90	ケインズの景気循環論 -特に「一般理論」に於けるその含蓄性と展開-	
昭和27	91	スミス理論に於ける発展概念の研究	
昭和27	92	販売原価計算の構想	
昭和27	93	商業信用状の経済的意義	
昭和27	94	株式価格の成立と変動に関する基礎的一考察	
昭和27	95	ケインズ貨幣経済構造の分析	
昭和27	96	アダム・スミスにおける経済政策	
昭和27	97	期間損益とその調整	
昭和27	98	ケインズ「有効需要の原理」-分析と批判-	
昭和27	99	為替統制機構の推移 -外国為替管理の研究-	
昭和27	100	経営分析 -比率法と趨勢法-	
昭和27	101	資金について -資金の需要と供給-	
昭和27	102	外国為替理論に関する一考察	
昭和27	103	企業調査研究	
昭和27	104	関税と失業	
昭和27	105	銀行信用 -信用創造論を中心に-	
昭和27	106	現代に於ける証券取引所の概念と使命	
昭和27	107	貨幣と経済 -国民所得と資本を繞って-	
昭和27	108	ブラジルに於ける経済管理と商業政策	
昭和27	109	広告の生産性と不生産性を説く論文 -附.広告と現代-	
昭和27	110	商法と会計原則の本質 -企業評価の新しい考え方の示唆-	
昭和27	111	戦後国際貿易の構図 -国際貿易憲章を中心にして-	

小樽商科大学 卒業論文（昭和27年度）

年度	番号	論題 (Theme)	備考
昭和27	112	価格変動準備金の検討 -現行制度を中心とする会計学的な考察-	
昭和27	113	棚卸資産の評価	
昭和27	114	国際価値論の展開	
昭和27	115	ケインズ理論の財政政策への応用について	
昭和27	116	景気循環について -資本主義経済体制の発展と成熟-	
昭和27	117	貨幣価値に関する考察	
昭和27	118	減価償却における費用と損失について	
昭和27	119	資本的支出と収益的支出 -固定資産会計に於ける問題を中心として-	
昭和27	120	マックス・ウェーバーによって提出された「資本主義精神起源論」とそれに関する論争史の一断面	
昭和27	121	マックス・ウェーバー研究	
昭和27	122	商品回転率の計算公式における正確性	
昭和27	123	「保険差益」研究 -圧縮記帳の問題について-	
昭和27	124	ヒックスの均衡理論 -価値と資本の一考察-	
昭和27	125	貯蓄と投資 -ケインズ雇用理論の一分析-	
昭和27	126	価格変動準備金の性格	
昭和27	127	マルクスの恐慌論の一考察	
昭和27	128	主として日本を中心とした中共貿易の一考察	
昭和27	129	ケインズ「貨幣論」にかんする若干の覚書	
昭和27	130	British Banks and the London Money Market by R.T.Truptilの翻訳「ロンドン金融市場」	
昭和27	131	中小企業の地位及び問題 -その金融面を考察する-	
昭和27	132	減価償却における評価の問題	
昭和27	133	企業形態に対する一考察	
昭和27	134	ケインズ経済学における金利の意義	
昭和27	135	雇用と所得階級	
昭和27	136	ケインズ利子率の一般理論	
昭和27	137	会計学の資産 -価値と費用について-	
昭和27	138	労使関係の類型 -原動型と従属型の一考察 -アメリカ自動車産業の研究	
昭和27	139	アダム・スミスの貨幣観について	
昭和27	140	真実性の原則に関する一考察	
昭和27	141	合理的販売経営論	
昭和27	142	株式配当に関する若干の考察	
昭和27	143	減価償却の財務的性格 特に資本維持の問題を中心に	
昭和27	144	経営分析 -某会社貸借対照表分析-	
昭和27	145	金融を中心とした中小企業の合理化について	
昭和27	146	企業経営とコントローラー制度 -管理統制方式の展開-	
昭和27	147	ケインズ理論を中心とする対外経済政策に就いて	